

【めむろ未来ミーティング】

令和3年10月28日(木)

13:30～15:00

高齢者支援

■参加者 7人

■芽室町 町長、高齢者支援課長、高齢者支援課長補佐、介護保険係主査、在宅支援係長、介護予防係長

■司会 政策推進課長補佐

■記録 政策調整係 村上主任、佐藤主事

- 1 開会
- 2 手島町長あいさつ
- 3 出席職員の自己紹介
- 4 ミーティングシートの説明
- 5 意見交換

■対応等必要事項

下線部分については、対応を要する事項として別途担当部署に対応報告書の提出を依頼します。

意見交換

【ご意見①】

緊急通報システムについて。現在、高齢者支援課では、令和3年度高齢者保健福祉事業30件以上を掲げ、その中であって緊急通報システムがあるが、今年死後2か月の高齢者の悲しい事故があった。高齢者支援課で、このような事故が起こらないようなネットワークの構築をしていて、民生委員など色々な組織の方がまわっているが、ネットワークにもれている高齢者が数多く見られる。このような状況について、町の現在の推進状況と今後の対策についてお聞かせ願いたい。

次に介護保険事業におけるマイナンバーの利用促

進については、どのような推進状況か。そして普及促進についてどう考えているか。マイナンバーは住民税務課で行っているが、町全体としての普及をどう考えているかを伺いたい。

【手島町長】

緊急通報システムについては、長年取り組んでいる。一般論として、家庭の中でどのような連絡体制になっているのかとか、家族や保健師のアプローチはしていたが現実的に家の中を見せてはもらえないという状況もある。すべての人の状況を把握しているかということ、もれているかもしれないが、私は、支援が必要な人については多くの数は把握していると思っている。健康状態、生活状態についても、かなりの割合の高さで把握しているのかなと思っている。ただ、把握できていれば重大な状況にならないかということ、そうとは限らない。例えば、家庭に入れてもらえないとなると、場合によっては警察との連携なども必要となる。一人暮らしの老人については緊急通報システムは有効だと思うが、90数パーセントが誤報、たまたま押してしまったという事例もあるため、そもそもシステム自体を総体的に見直すという姿勢は必要かなと思う。大変痛ましい事故だったので今後そういった事がないように、保健師もこれから予防活動や地域に出向くというところを、強化していきたい。

マイナンバーについては、国としては色々進めようとしているが、実態としてはシステムを入れ替えてやっていくのは難しいと思う。ただ大枠の方向としては、今後マイナンバーが進んでいくと思う。マイナポイントが出てマイナンバー申請が伸びている状況なので、そういうのが増えてくれば有効に活用できると思うので、セキュリティなど課題はあるが、普及促進の方向に行くのかと思う。

【担当課】

緊急通報システムは、希望される方の年齢によってはそのままつけましようというケースと、年齢の若い方については関係する人を訪問させていただいて必要かどうかを検討して設置するようにしている。

引き続き続けていこうとしている。それに加え、町内事業者、毎日物を運ばれるような事業者と見守りネットワークの協定なども進めている。食事サービスを運んでいただく方に、取り込んだ形跡がないとか異変があれば家族や役場に連絡が来るような、色々な手法をとっている。色々な団体活動に関わっていない方や、健康だから病院にかからない方というのは多いと思うが保険制度利用の足跡がない方、病院にかかれない方などについて把握させていただいて、保健師が訪問したりお声がけしたりするような取り組みをしている。

マイナンバーは、介護保険の制度の中で利用することは今のところない。

【手島町長】

ネットワークについては、皆様方から色々な情報を受けられるような仕組み作りが必要だと思う。介護保険事業者、生活支援団体、民生児童委員などネットワークを今以上に構築して、何かあったら高齢者支援課に連絡するような意識が必要かと。情報は非常に大事だと思っている。

【ご意見①-2】

ネットワークというところで、民生委員、社会福祉協議会、たすけ愛、色々な組織があるが、制度にのらない方もいらっしゃる。そういった方は、町長のおっしゃったように色々なネットワークでフォローしていかないといけないと思う。そういった意味では、来年4月1日から地域包括支援センターができるので、そういったところに依頼してもっとネットワークができることを期待しているのでよろしく願いたい。

【ご意見②】

芽室町の住民になって50数年経つ。北伏古に住んだ頃はバス事情が良くて生活がしやすかったが、現在南町に住んでバス（コミバス）は2時間に1本で一方通行の状況。以前は試験場に行けたし、上美生にも行くバスがあったが、次から次になくなった。その当時は若くて運転もできたので不便を感じな

ったが、70歳を超えて免許証の返納を考えた時に、バスの状況を見た時に、もう少し考えてほしい。

もう1点は、お店がなくなってしまった。今は鉄南地区にお店がなくなり、生活難民になりそうな気がしている。セブンイレブン1軒では、私たち高齢者は食べてはいけない。その辺も優しく考えてほしい。例えば、大空のような形も考えてもらえたら嬉しい。だんだん不幸になっていく感じではなく、住んで良かったと思える町になってほしい。免許を返納した人はパークゴルフ場に行くのに2時間かかるし、ゲートボールで南コミセンに行くのも2時間かかる。一方で帰りは5～7分で家に着ける。一方通行で大変だと感じている。色々なやり方については、係の方が考えてくれていると思うので期待しているので、よろしくお願いします。

【手島町長】

町としても高齢者の足の問題は大きな課題としてとらえている。市街地についてはコミバスを走らせていただいております、農村地域の高齢者をどうするかというところでタクシーチケットを配布させていただいて好評を得ている。これがすべてとは思っていないが、これをきっかけとして農村地域の方に町に来ていただけるかという方策を練っていきたい。コミバスの一方通行については、山手線のように両方から2本あれば行き帰りの時間が同じくらいになるのでベターだと思うが、費用対効果を考えなければならぬ。うちのコミバスは「空で走っている」と言われることもあるが、利用は高い方だと思っている。今後使う人が増えていけば、2台体制でいくのが目標というか理想像。市街地の高齢者の足の確保という意味で、後期計画の中で考えていかなければならない課題だと考えている。

商店については、本州についても買い物難民が出てきていると言われている。要望を的確にとらえてどうするかを考えていかなければならないが、商店を開く・辞めるについては役所の方でどうこう言えない。むしろスーパーさんやコンビニさんへの行き帰りが難しいのであれば、買ってきてもらえるようなシステムを作る方が早いという気もしているので、

そういった検討も進めていきたい。本当はスーパーに行って買い物したいと思っていらっしゃると思うが、足の関係で難しいということであれば配達も含めて仕組みが必要になっていくのかと。あとは選択。ご自分で行って買いたいという方と、配達でもいいという方、選択肢を広げられるようにすることが大切かと思っている。

【ご意見②-2】

帯広の病院に行って、帰りが鉄南に行く便が16時06分。もうちょっと遅くならないかという欲張りな気持ちがある。

【手島町長】

通院など帯広との行き来については、JRとの連携でどうコミバスを回すかは分析しなければならない。他の交通機関との連携をきちっと分析して、的確な時間帯でまわしていくことが妥当。予算も1台3000万円かかる。必要であれば、利用する方が多くなるのであればお金をかけたからダメということではないので、状況を見極めながら検討したい。

【ご意見②-3】

本当に困っている人の話を聞くことが多くなっている。車のない不便さは、返納してみないとわからない。自転車も転んだとか、怖い話を聞く。バスの件だけでなく、営業車の件も検討してください。

【手島町長】

農村地域のタクシーチケットという考え方もあるが、こばとハイヤーさんも6台しかタクシーがない状況。要望が殺到すると難しくなるので、今MaaSといって要望があった地域をAIでセットしてまわる仕組みもある、効果的・効率的に回ればハイヤー会社にもメリットになり利用者とWIN-WINになる。高齢者の足の確保は大きな課題と認識しているので、しっかり取り組んでいきたい。

【ご意見③】

富山県の近くの町で、過疎地だがコミュニティバ

スをうまく運用して、大きく発展して効率的に動かしているのを見た。そういうのを芽室でも活用できたら。町長から内回り外回りという話もあったが、頭を働かせてやってもらえたら。

商店の問題については、我々消費者にも問題があるのでは。安いものを求めて大型店に行ってしまう。その結果、地元商店街がさびれてしまったのでは。消費者が、高くても地元のを求めていけば自然と商店も潤っていくのではないか。地元の店を育てるというのも消費者の1つの選択肢ということも、求められているのでは。日本人は安いものに向いていくが、私が芽室に来たのは昭和40年代だが、スーパーに帯広からも人が来ていたと女房から聞いた。商品が良ければ人が来ると感じているので、我々が地元の業者を育てるという意識を持つことが重要かと思う。

別のことだが、ここに参加している男性は2人。何をするにも、男性の参加が少ない。ラジオ体操の活動をしていて、会員の方のご協力で全道の表彰を受けたが、ラジオ体操の会も女性が6~7割というのが実情。男の出不精、一歩前に出る勇気がないのかなと思う。一歩前に出れば色々な景色が見られると思う。ある会合の時に「一歩前に出る勇気を持てば状況は必ず変わる。」という言葉があった。人間どうしても出るのはおっくう、冬は特に。しかし、一歩前に出れば色々な人の話が聞けるし、刺激を受けるし、活動したら面白い。全国色々な会員とつながりがもてる。男性も家に閉じこもるだけでなく、こういった会合に出られるように、町としても後押ししていただけたら。

【手島町長】

富山市のシステムについては、たまたま電車の改修にあたって、コミュニティバスのルートを新しくしっかりやりましょと、電車とのやりとりでうまくい時間に動けるようにしようということをされていたと思う。いずれにしてもそういう連携で、色々な資源をうまくつかうということが今後の交通には必要であるし、コンピューター的なAIも今後必要になるので、町内あるいは帯広も含めて完結できるよ

うに思っている。

消費者の問題については、ある意味ありがたいご意見。私も聞いたのは、ヨーロッパのある国で卵1個100円だけど“地域の人がいかに作って卵だからという意識で高くても買うんだ”という話を聞いたことがある。何でも安いものを求めるのではなく、地産地消・地域の経済活動を盛り上げるという部分もあるので、消費者協会など色々な機関と連携して意識啓発していくのも必要ではないかと。データを見ても、消費が帯広に流出しているのは明らか。まちなかに人が集っていただけるような方策がないかということを考えたいと思っている。集まっていたら消費行動につながるの、まちなかだけ良ければいいということではないが、そういったことを考えていきたい。

男性の参加が少ないというのは、意外だった。逆に審議会など委員の割合は、男性の方が圧倒的に多く女性が少ない。私どもで強制ということにはならないが、今年度から高齢者支援課をつくったが、先ほど別の参加者から地域包括支援センターの話があり、介護保険のプランはそういったところに委託してお任せして、役場職員は元気高齢者の活動や状態を町として動いて把握して対応していこうという考え方もあって、高齢者支援課を作った。昔は高齢者というと、介護とか手をかけなきゃいけない人という考えもあったが、今は70歳ぐらいの人みんな元気。いかにそういった人たちの元気な期間を増やしていくか。家にいる男性をひっぱりだして、色々なところに顔を出していただくようなしなかけを考えていかなければ。課が始まったばかりだが、そういった課題が高齢者支援課の中にもあることをご理解いただけたら。

【ご意見④】

私たちの団体は、食事を作って提供して、皆さんに集まっていたいて、ゲームしたり脳トレしたりスポーツしたりしているが、コロナで食事も作れないし、集まることもできない。11か月休んで、やっと12か月目に集まってみたら6人くらい辞めていた。その間に亡くなった人、出るところがなくな

ったので施設に行くようになったので辞めたなど。

食事作ってもらって食べられるから来ていたが、去年の4月から1階の調理室が使えなくなった。集まりたいといっても食事が作れないので、弁当を買って集まっている。コロナが良くなったら食事を作る場所を貸していただきたい。また、色々工夫して、文化活動している人やスポーツしている人に交渉してボランティアで何かしていただきたいとやっていただいているが、今まで部屋を無料で借りられていたが、コロナ禍で大きな広い会場を借りなければいけなくなり会場費が莫大になる。私たちは出席して下さる時だけ400円をいただいて、食事を作って食べて帰っていただいていた。今は400円ではお弁当も買えない。100円は会場費にあてて、町からの補助をいただく分をやっと充てている。せっかく10年以上続いてきた会。ボランティアも50代1人60代1人、70代3人と80代。参加してくれる人は83～99歳の20人。2年前までは全部女性ばかりだったが、現在は男性も2人入っている。会場、調理室を安く借りられたりするような形をとっていただけたら。どうぞよろしくお願いしたい。

【手島町長】

食事を作る場所や会場費ということは、他にも文化団体など、高齢者が多い団体については同じ声を聞いている。皆さんは無償で労力を出してやっても会場費が圧迫している。それを町で全部助けるとは今言えないが、町がこれからまちづくりのために、高齢者の生きがいを、元気高齢者を増やすということ考えた時に、政策として行政がやるべきだということになれば、できるかなと思う。そのためには、団体も色々あるので、支援の線引きをしなければならない。公的な部分があって町民のためになるという線引きをさせていただいた上で、税金を使うので議会のご理解をいただいた上で政策としてやる、そのような流れを踏まなければならない。色々な団体から伺っているので、団体全体として、逼迫具合や負担具体を見た上で考えていかなければならない。要望についてはよく理解できたので、今回のお話は記録に残るので、高齢者支援だけでなく、

町全体で考えていきたい。

【ご意見⑤】

生活支援の仕事をしているので、どんな声があるのか知りたくて参加させていただいた。コロナ禍で通常よりも密をさけるために会場を広くとっていて、そうなると会場費が多くかかっている。参加者の人数が多いほど、活動が活発なほど、広い会場が必要になると、おのずと金額が大きくなり負担感という話はよく聞いている。今の段階ではそれを助成するものはなかなかなく、支援センターの助成金はあるが、他の助成金と重なってはいけないというのがある。支援が必要なのは今というのがあり、皆さん今思い思いで動いているので、重ねてお伝えさせていただいた。

また、参加の場の多様さが求められている。町で開催されているひまわりが人気で、通われている方は色んなところに通われていて健康を維持されているなという一方で、制度やサービスに該当しない人もたくさんいて、そういった人が選べる場が必要だと最近特に感じている。男性の集まる場も。現在の状況をお伝えさせていただいた。

【手島町長】

会場費の負担感が強いということと、そして今必要というお話もあったので、頭の中で考えてみたが、新型コロナの対応で、町に対して地方創生臨時交付金があり、それを財源に使うってコロナ禍の経済対策や医療福祉対策をやらせていただいている。コロナ禍である程度ソーシャルディスタンスが必要というところなので、そういった臨時交付金を財源として使用できないかを国に聞いてみるということは方法としてあるかと思う。（支援が）今必要というお話なので、しかもコロナが原因でそういうことになっているので、すぐ解決できるかは明言できないが、そういったところは考えてみたい。

小さな活動について。選択肢を作るというところでは必要。11月に町民活動支援センターと未来ミーティングを行う予定だが、色々な事例などをお知らせいただいた上で、行政だけでそういった場を全

部作るのには厳しいと思うので、支援センターさんなどの力も借りながら選択肢を作っていく方法をお互い考えていくことが必要。あとは、役割分担の中で財源として必要なので町として支援してくださいということになるのか、町として主催として何かやってくださいということになるのか。私としては基本的には民間の活動として委ねたいという思いがある。多様性は認めているが、あまりにも勝手な人たちの集まりを作るのは、それぞれに場所や経費はそれぞれかかってくるので簡単にはいかないところはあると思う。活動の活発化という意味では選択肢を作るというのは必要だと思うので、高齢者に限らず必要だと思うので考えていきたい。

【ご意見⑥】

私自身も大変な思いをしたが、夫を亡くした時にどのような手続きが必要なのか。役場に行ったら一覧表があるのか、病気で倒れた時にどうしたら介護の認定を受けられるのかといった細かい情報が個人に届かない。もう少し分かりやすく情報を流してもらえたら。普段生活している者にとっては、何々の書類をとってきてとか、何部とってきてとか、何を添付してとか、そういったことは不慣れ。1人で住んでいると、誰に相談したらいいのか、子どもも遠い。私自身も大変な思いをしたが、ご近所にもいる。どういう風にしたらいいのか分かりやすく教えてもらえたら。

【手島町長】

亡くなった時の手続きについては、声は聴いている。たくさん手続きがある。世帯構成や法定相続人がどれくらいいるのかとか、その人その人の状況によって必要な書類が変わってくるというのはある。今のお話を聞くと、基本的に必要なものはこれで、お客様の話を聞いてお宅様にはこれが必要でというのがあれば、少し分かりやすくなるし、作ったらいいのかなと思う。住民税務課の業務になるので、相続関係については確認させてほしい。基本的な部分を作っていくというのは難しい話ではないので。

倒れた時の手続きも確かに色々ある。基本的な

説明はできるが、こちらは相続以上にいろんなケースがあって、認定度によってかわってくるとか医療が今必要なのかとかもあるので、トータルの福祉サービスを全部網羅するのが（住民にとって）便利かは分からない。高齢者支援課や地域包括支援センター、施設のケアワーカーさんとかの方が早いのかという気はする。

本当に少ないのであれば広報などでお知らせすることが必要かもしれない。

15:00 閉会

【ご意見⑥-2】

どこに行ったらいいのかというのが一番分からない。

【担当課】

高齢者のお困りごとは、高齢者支援課が地域包括支援センターと2枚看板になっているので、相談にお越しいただけたら。

【ご意見⑥-3】

動けない人とかなかなか行けない場合は、来てもらえるか。

【担当課】

お電話1本で訪問するので、気軽にご相談いただけたら。

【ご意見⑦】

今インフルエンザのワクチン接種が開始になったが、巷の情報では去年より2割ぐらい少なくて大変と聞くが、行政に入っている情報としては、インフルエンザのワクチンの情報はいかがか？

【手島町長】

縦割りで申し訳ないのだが（今日この場に来ていない）健康福祉課の所管であり、各医療機関の入荷状況もあるので、今お答えできない。確認して後で御連絡させていただく。去年はうがい手洗いをしっかりしていただいたのでインフルは流行っていない状況だったが、今年の状況がどうなるのかわからない。足りないのであれば供給を増やすよう努力しなければならぬと思うが、確認させていただきたい。